

～ 令和元年東日本台風から三年 ～

阿武隈川における治水対策の状況

令和5年3月2日

国土交通省 福島河川国道事務所

1. 阿武隈川における治水対策の状況【概要】

○令和元年東日本台風では阿武隈川流域において、既往最大の洪水により堤防が決壊するなど各地で甚大な被害が発生したことから、国、県、沿川市町村により「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を策定し、ハード・ソフト両面で治水対策を推進している。

阿武隈川本川等の主要事業(国)

- 被災した80箇所(荒川などの支川含む)の施設の**復旧が完了**。
- 河道掘削事業を実施中。全体計画約220万 m^3 のうち、これまで**約140万 m^3 (約6割)の掘削を完了**。(12月末時点)
今年度末までに約150万 m^3 (約7割)の掘削を目指している。
- 遊水地整備に向け沿川3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)で住民説明会随時行っているところ。施設の詳細な設計や調査などを進めているほか、一部用地協議に着手。

阿武隈川支川の主要事業(県)

- 塩野川(伊達市)、安達太良川(本宮)等については、流下能力の向上とバックウォーター対策のため、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施中。

堤防強化(経蔵地区_郡山市)



河道掘削(横塚地区_郡山市)



堤防嵩上げ(塩野川_伊達市)



2. 「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。
- 今後、**関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

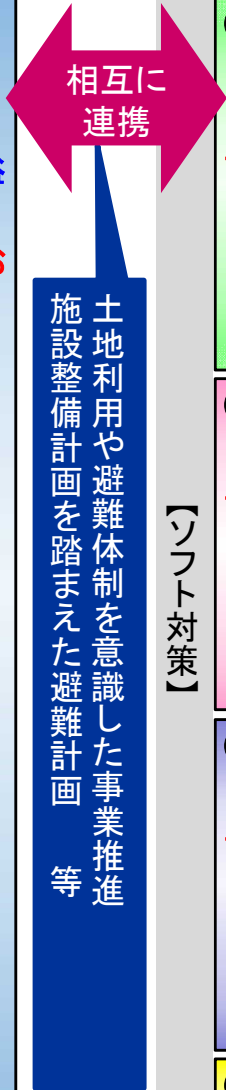
- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)



②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化
- 沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

- 地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

2. 「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」 ～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す。

■全体事業費 約1,840億円

■事業種別

○改良復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約999億円

事業期間 令和元年度～令和10年度

国：阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約215億円

事業期間 令和元年度～令和6年度

福島県： 約 66億円

宮城県： 約 18億円

○災害復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約130億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

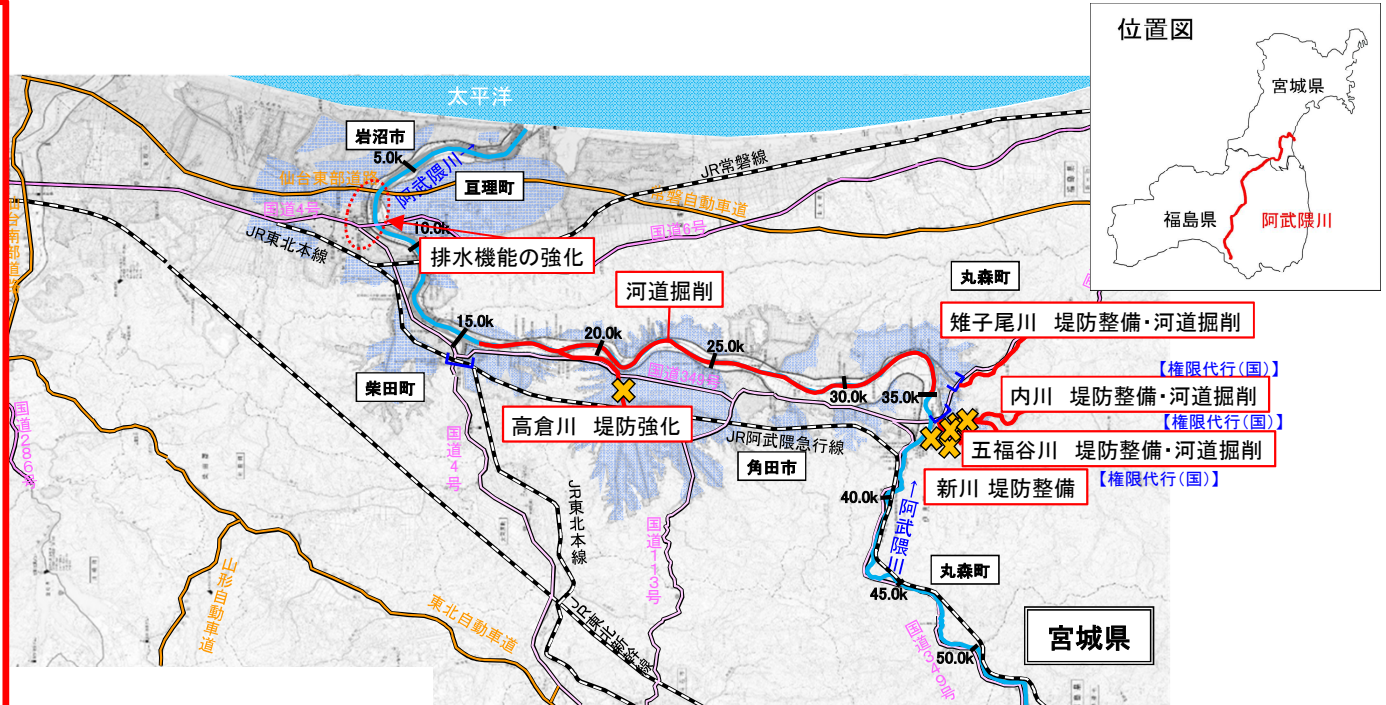
国：阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約 99億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

福島県： 約268億円

宮城県： 約 44億円



※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

※令和2年1月時点の情報である。

3. 緊急治水対策プロジェクト 主要事業箇所 (R3年10月～)



⑤塩野川 堤防嵩上げ(県)
 (伊達市)
 塩野川橋から天神橋までの堤防嵩上げ、護岸が完了

④遊水地整備(国)
 (鏡石町、矢吹町、玉川村)
 地元説明会を開催し、範囲などを提示
 R4から用地協議に着手予定

⑦谷田川 堤防強化(県)
 (郡山市)
 事業区間全体の河道掘削等が完了し、護岸を実施

①竜崎地区護岸復旧(国)
 (玉川村)
 巨石張りによる河岸の復旧を実施



⑥濁川 堤防嵩上げ(県)
 (福島市)
 堤防の嵩上げや橋の架け替えなどを実施
 120mの堤防嵩上げが完了

②江持地区河道掘削(国)
 <須賀川市>
 釈迦堂川合流点下流右岸で河道掘削を実施

⑨安達太良川 堤防嵩上げ(県)
 (本宮市)
 JR付近を除き、堤防嵩上げ、護岸が完了

⑧逢瀬川 堤防強化(県)
 (郡山市)
 逢瀬橋から咲田橋までの築堤、河道掘削、護岸が概ね完了

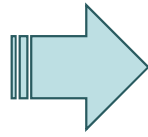
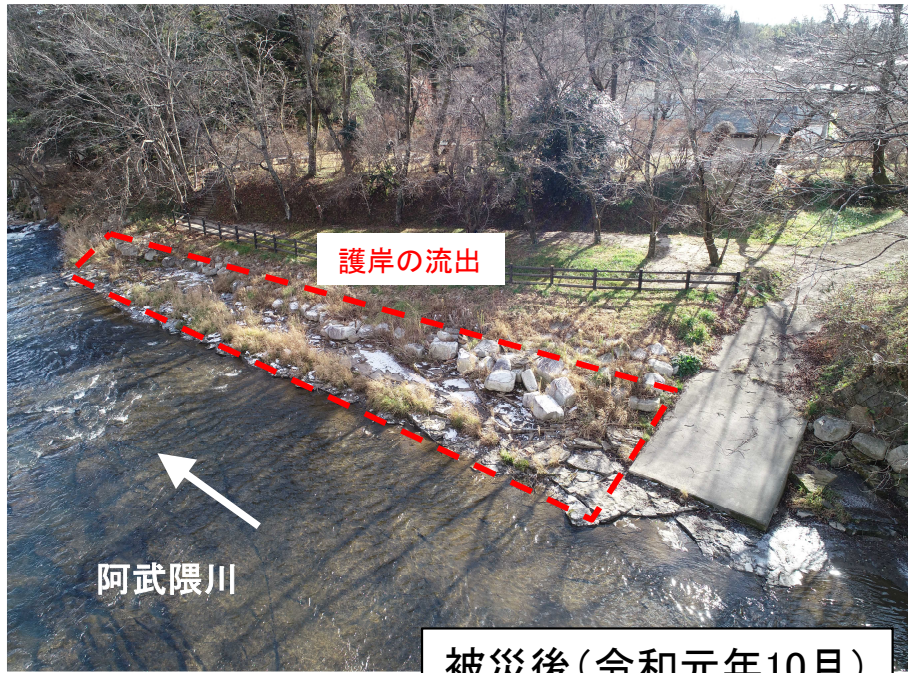
国事業 (Yellow box)
 県事業 (Blue box)

③樹木伐採(国)
 <全川>
 約40万m²の樹木伐採を実施。

⑩危機管理型水位計等の設置(県)
 <全県>
 水位計420箇所、簡易カメラ157箇所の情報を提供中
 <阿武隈川>
 水位計224箇所、簡易カメラ85箇所

① 災害復旧（例：竜崎地区護岸復旧_玉川村）（国事業）

○洪水により護岸が被災（流出）したため、自然景観にも配慮した護岸を復旧。



（工事状況）



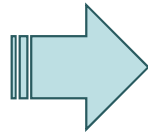
巨石練張の施工状況

② 河道掘削（例：江持地区_須賀川市）（国事業）

○ 釈迦堂川合流点下流右岸側において河道掘削を実施。



施工前(令和2年12月)



施工中(令和4年7月)

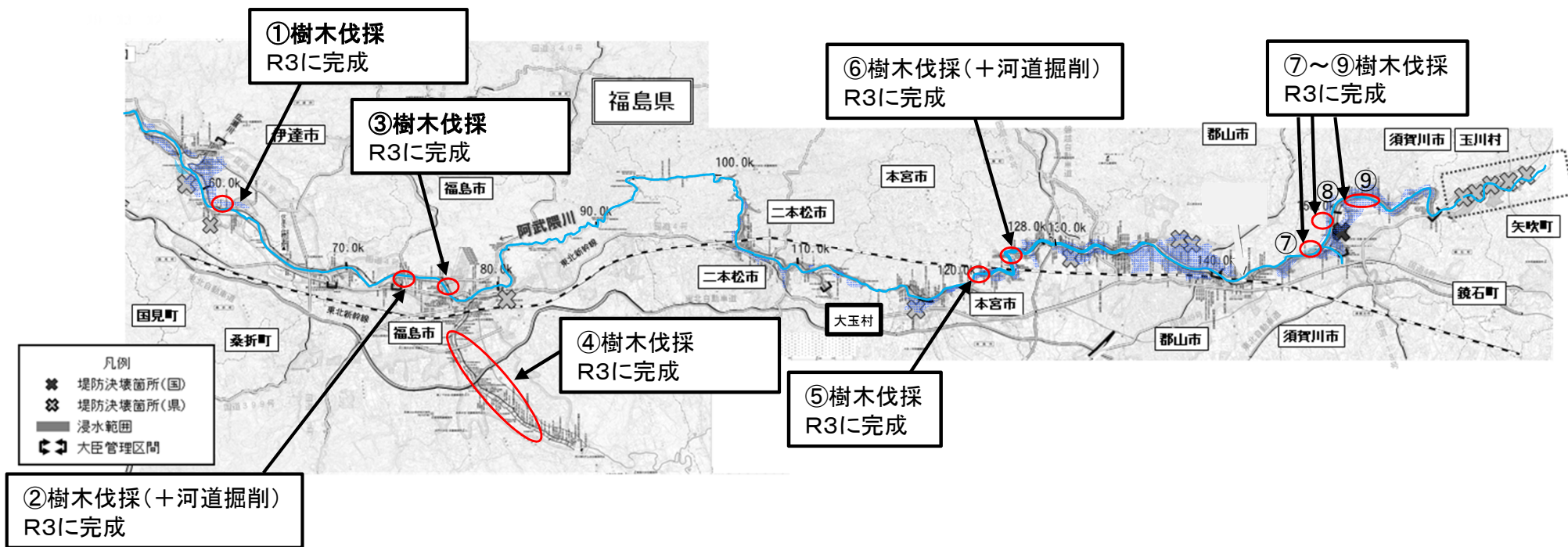
(工事状況)



河道掘削の施工状況

③ 樹木伐採 (国事業)

○ 流下能力の向上・河川監視カメラの視認性向上などを目的とし樹木伐採(約40万m²)を実施。



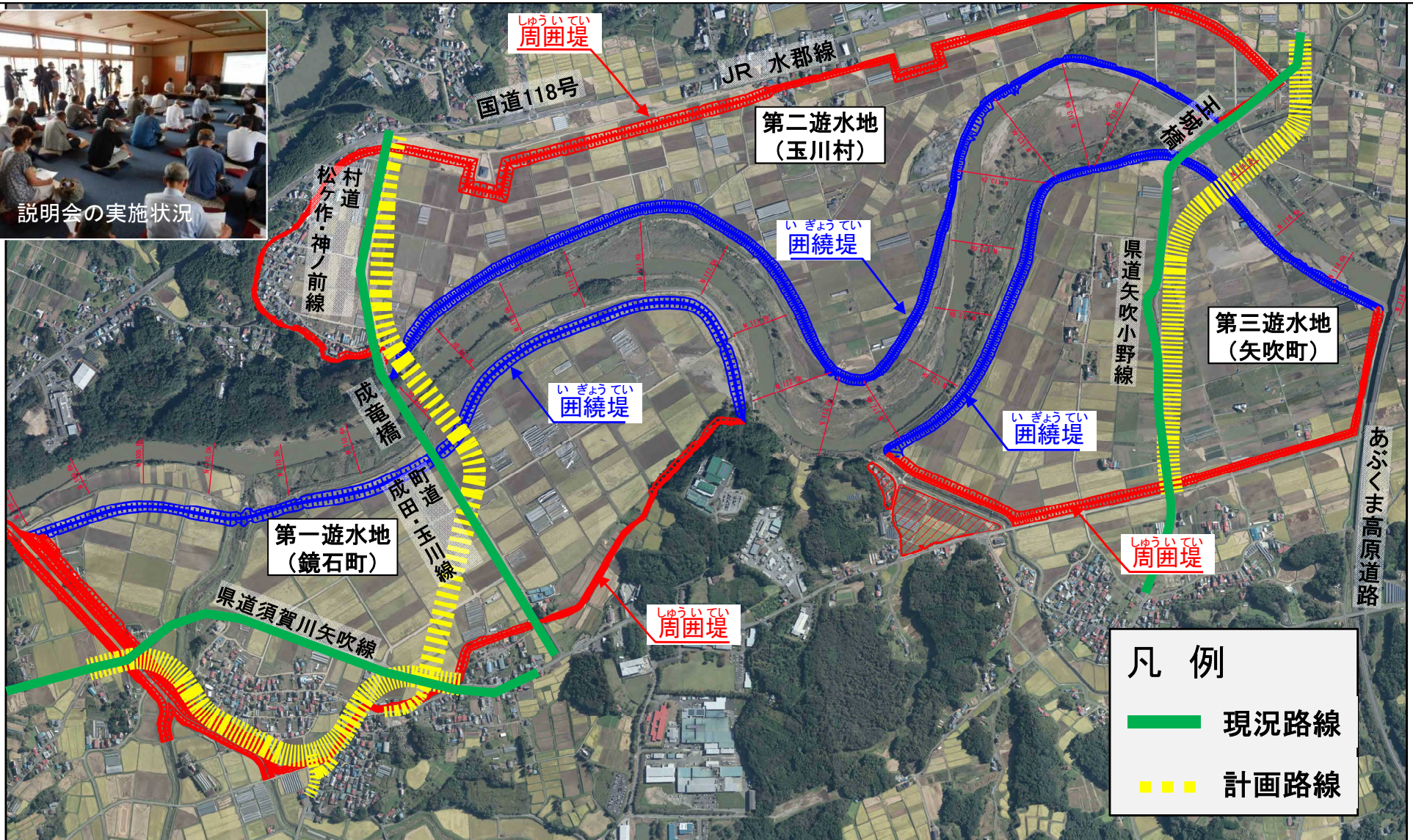
樹木伐採前(①東根川地区)



樹木伐採後(①東根川地区)

④ 遊水地整備（鏡石町、矢吹町、玉川村）（国事業）

- 3つの遊水地整備を計画。（全体面積約350ha、洪水調節容量1,500～2,000万m³程度）
- これまで住民に対して事業説明（用地説明含む）を6回実施し、延べ2,000名（地権者数約800名）に出席いただいた。（他にも意見交換会などを実施）
- 令和4年秋から用地協議を開始。

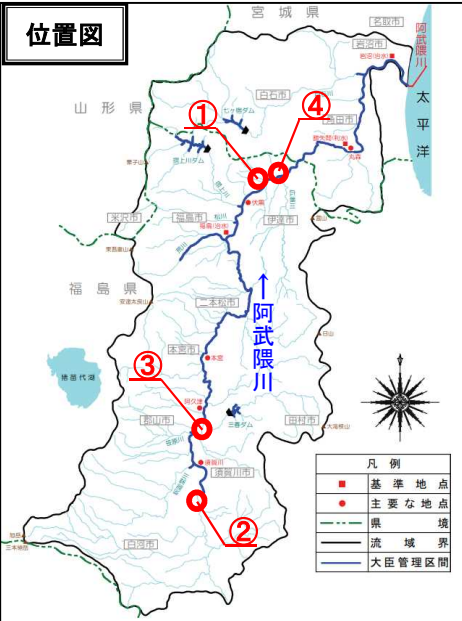


4. 工事(業務)受注企業の総合力による治水対策の推進!

○令和元年東日本台風では、工事受注企業が迅速に現地状況の把握、排水作業や被災箇所
 の緊急復旧に努め、被害拡大を防止。
 ○本格復旧等にあたっては各分野で、その持てる力を最大限に発揮し、阿武隈川の災害対応を推
 進中。多くの方が災害復旧等に尽力。

令和元年からの3年間
 工事関係
 業者数: **39**社
 工事件数: **115**件
 測量・調査・設計関係
 業者数: **62**社
 業務件数: **168**件

■破堤箇所の緊急復旧の状況



■本格復旧等の状況



5. 堤防を活かしたまちづくり（事例_本宮市の河畔広場）

- 本宮市のまちづくりと一体となった堤防嵩上げを進め、令和3年3月に完了。
- 地元協議会が阿武隈川と人々の「水辺の利活用」に向け社会実験イベントを開催。
- 水辺の利活用が地域の賑わい(元気)に繋がることに期待。

管理用通路の活用(キッチンカー)



河畔広場のイベントの様子



整備した管理用通路

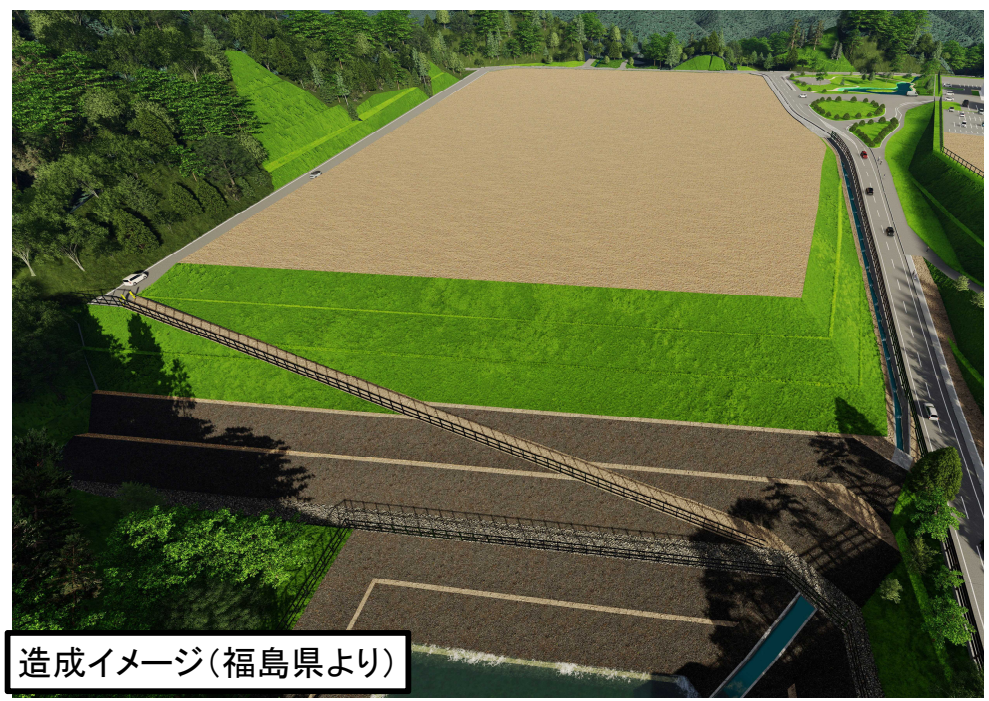


“まち”と“かわ”をつなぐ河畔広場



6. 掘削残土が造り出す産業基盤！（事例__工業の森・新白河）

- 阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに伴い発生する河川掘削土を、未分譲地である県営工業団地「工業の森・新白河A工区」へ搬出。
- 令和4年2月から本格的に河川掘削土の搬出を開始し、これまでに約22万m³を搬入済み。
- 令和4年9月16日 企業の立地が決定！ 地域雇用の拡大が期待される。
- 企業・地元(白河市)・県・国 4者がWINの関係。



造成イメージ(福島県より)



掘削土搬入前 (令和3年7月)



掘削土搬入後 (令和4年7月)

PRESS RELEASE

令和4年9月16日
福島県企業立地課

報道関係者各位

新工場立地に関する基本協定の締結について

現在、造成に向け準備を進めている県営工業団地「工業の森・新白河A-1工区（白河市豊地地内）」につきまして、下記のとおり、工場立地に関する基本協定書を締結したことからお知らせいたします。

記

- 1 「工場立地に関する基本協定書」締結日
令和4年9月16日（金）
- 2 協定締結者
 - (1) 福島県
 - (2) 白河市
 - (3) ニプロファーマ株式会社
- 3 立地する企業の概要
 - (1) 企業名：ニプロファーマ株式会社（法人番号：3120001087781）
 - (2) 本社所在地：大阪府大阪市中央区道修町二丁目2番7号
 - (3) 代表者：代表取締役社長 西田 健一
 - (4) 資本金：86億6,947万円
 - (5) 売上高：896億円(2022年3月期)
 - (6) 従業員数：3,557人(2022年3月末現在)
 - (7) 事業内容：医療用医薬品製造、販売
 - (8) 県内拠点：鏡石工場（岩瀬郡鏡石町岡ノ内428番地）
 - (9) その他工場：大館工場、伊勢工場、埼玉工場、城北工場、志紀工場
 - (10) グループ会社：ニプロ(株)、全星薬品工業(株)
- 4 立地の目的

同社における経口剤生産能力を増強し、市場への安定的な供給を図るため新工場を建設するもの（既存鏡石工場は引き続き、同社中核工場として維持しつつ、新工場により生産能力を増強する）。

（裏面へ）

記者発表資料（福島県HPより）

7. (参考)阿武隈川上流 流域治水プロジェクトの取り組み

- 昨今の気候変動による災害の激甚化・頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)により、流域全体で行う治水対策「流域治水」を推進する阿武隈川上流流域治水協議会を令和2年9月に設立し、「阿武隈川水系流域治水プロジェクト」を策定し、令和3年3月に公表した。
- 以後、プロジェクトについては、進捗の見える化等の更新を図るとともに、流域全体の関係者による総合的な防災・減災対策を実施。

流域治水プロジェクトに関する取り組みの経緯

【日時】	【会議等】
令和2年9月15日・16日	第1回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和3年2月19日・22日	第2回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和3年3月30日	阿武隈川水系流域治水プロジェクトを策定 阿武隈川流域治水宣言の表明
令和3年6月20日	阿武隈川上流 流域治水シンポジウム
令和3年10月28日	第3回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和4年3月11日	第1回 釈迦堂川流域水害対策検討会
令和4年3月15日	第4回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和4年3月31日	阿武隈川水系流域治水プロジェクトを更新
令和5年2月13日	第2回釈迦堂川流域水害対策検討会

協議会メンバー

福島市長 郡山市長 白河市長 須賀川市長
 二本松市長 田村市長 伊達市長 本宮市長
 桑折町長 国見町長 川俣町長 大玉村長 鏡石町長
 天栄村長 西郷村長 泉崎村長 中島村長 矢吹町長
 石川町長 玉川村長 平田村長 浅川町長 三春町長
 棚倉町長 福島県土木部長 福島県危機管理部長
 福島県農林水産部長
 農林水産省東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所長
 林野庁関東森林管理局福島森林管理署長
 気象庁福島地方气象台長
 国立研究開発法人森林整備センター関東整備局長
 国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所長
 国土交通省東北地方整備局摺上川ダム管理所長
 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所長

各協議会の開催状況

【第2回 阿武隈川上流流域治水協議会】



【阿武隈川上流流域治水シンポジウム】



【第4回 阿武隈川上流流域治水協議会】



【第2回 釈迦堂川流域水害対策検討会】



7. (参考)阿武隈川沿川首長による、みちのく号からの現地視察

開催目的・概要

- 阿武隈川沿川の首長にみちのく号に搭乗頂き上空から、令和元年東日本台風から3年が経過した阿武隈川上流の様子や阿武隈川の流域特性(上流遊水地、狭窄部、市街化の発展)について現地視察を実施した。
- 現地視察では、令和元年東日本台風で被災し、復旧完了した全80箇所の被災箇所や、現在進めている緊急治水プロジェクトの進捗状況を確認し、今後より一層の流域連携や上下流連携が図れるよう現地視察を通じて認識を深めた。

開催日時・搭乗者

➢日時:令和4年10月18日(火)

➢開催時刻:14:00~15:30

➢搭乗者:伊達市長 須田 博行

福島市長 木幡 浩

大玉村長 押山 利一

矢吹町長 蛭田 泰昭

福島県 河川整備課長 杉原 雅人

福島県 県北建設事務所長 長嶺 勝広

福島河川国道事務所 事務所長 丸山 和基

➢日時:令和4年10月24日(月)

➢開催時刻:14:00~15:30

➢搭乗者:国見町長 引地 真

本宮市長 高松 義行

玉川村長 石森 春男

鏡石町長 木賊 正男

福島県 河川整備課長 杉原 雅人

福島県 県中建設事務所長 宗像 誠也

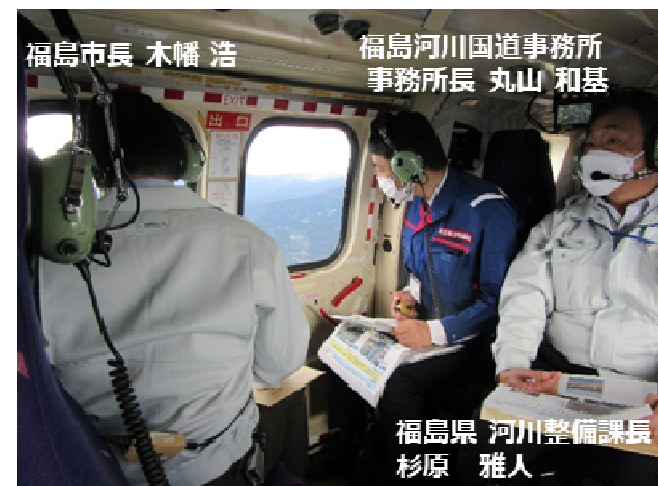
福島河川国道事務所 事務所長 丸山 和基

視察状況写真

令和4年10月18日(火)



矢吹町長 福島市長 大玉村長 福島河川国道事務所長 県北建設事務所長 福島県 河川整備課長



福島市長 木幡 浩 福島河川国道事務所 事務所長 丸山 和基

福島県 河川整備課長 杉原 雅人

令和4年10月24日(月)



国見町長 鏡石町長 本宮市長 玉川村長 福島河川国道事務所長 県中建設事務所長 福島県 河川整備課長 福島河川国道事務所 調査第一課長



鏡石町長 木賊 正男

玉川村長 石森 春男

■ 流域治水の取組をさらに推進するため、流域の関係者による施策の検討する際に、流域治水の実践を支援するためのツールとして、流域治水の3本柱の施策に基づく実施主体別の各施策の目的、内容、支援策、推進のポイント等を分かりやすく簡潔にまとめた流域治水施策集【Ver.1.0 水害対策編】を作成。

【流域治水施策集の特徴】

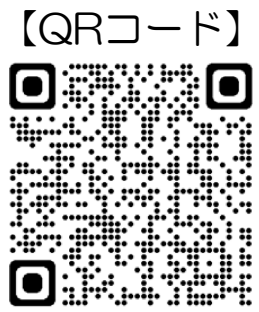
- ① 施策の**実施主体別の目的・役割分担**等がわかるよう一覧で整理
- ② 流域治水の実践において参考となるよう、各施策の**概要・推進上のポイント**等を取りまとめ

▼流域治水施策集【水害対策編】

国土交通省 農林水産省



流域治水施策集
目的とそれぞれの役割
Ver.1.0 水害対策編



【URL】 https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/gaiyou/panf/sesaku/index.html

■ 施策集の使い方

流域治水の役割分担が分かる目次

目次では、流域治水の全体像を俯瞰した上で、各施策の実施主体となる者が、目的に応じて、何を根拠として何に取り組むと良いかがわかるように、施策の目的・実施主体・根拠法令・法定計画等を一覧にしました。

あわせて、取組の実施の際に活用できる予算・税制についても記載しています。

この目次を活用して、各関係者において、施策の具体化や既に実施されている施策の点検・改善等に役立てることを想定しています。

流域治水の役割分担	流域治水施策集		流域治水の役割分担	
	目的	実施主体	根拠法令等	法定計画等
洪水氾濫の防止	洪水氾濫の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川への流出抑制	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
	河川流域内の洪水の防止	河川管理者	河川法	河川総合計画
内水の滞り	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
	内水の滞り	河川管理者	河川法	河川総合計画
農地等の洪水の防止	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
	農地等の洪水の防止	農業者	農地法	農地改良計画
貯留地の保全(浸水の防止)	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画
	貯留地の保全(浸水の防止)	河川管理者	河川法	河川総合計画

流域治水の3つの対策の柱に基づき、目的を細分化した上でハード・ソフトの施策を一覧化

各施策の概要・ポイント等を取りまとめ

それぞれの施策のページでは、目次で整理した目的・実施主体別の施策毎に、施策の内容・効果・予算・税制・技術的支援、推進上のポイントなどをまとめ、紹介しています。

各施策について、目次で整理している
・目的
・実施主体
・根拠法令・計画等
を記載し、位置付けや役割分担を明確化

施策の内容・効果を詳述するとともに、
国による支援として、予算・税制に加え、
ガイドラインや通知・運用等の技術的支援について記載
※ガイドライン・手引き等については、国が策定者となる場合は記載を省略している

これまでの施策の運用状況等を踏まえた
施策推進のポイント、留意点等をまとめ

施策・制度に係る問合せ先を記載

1 氾濫を防ぐ・減らす 洪水氾濫の防止

第1 河道掘削・築堤・引堤・放水路、ダム・遊水地、輪中堤

目的: 洪水氾濫の防止

実施主体: 河川管理者

根拠法令・計画等: 河川法、河川総合計画

予算・税制: 河川総合計画

効果: 洪水氾濫の防止

留意点: 洪水氾濫の防止

問合せ先: 国土交通省 水管理・国土保全局 治水課

7. 阿武隈川流域における各取組について

○上下流連携の促進



【軽トラ市@福島駅前】
上段：令和4年9月
（鏡石町・玉川村）
下段：令和4年8月
（矢吹町）

【阿武隈川上流自治体特産品フェア】
道の駅 伊達の郷りょうぜん(令和2年10月)

【阿武隈川サミット】

○流域治水の啓発、人材育成



(福島市)

(須賀川市)



【パネル展@須賀川市、福島市】



【出前講座】

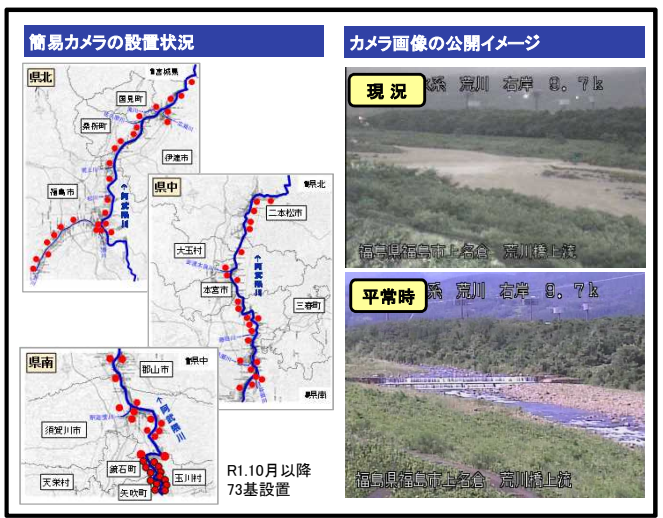


【タイムライン研修会（桑折町）】

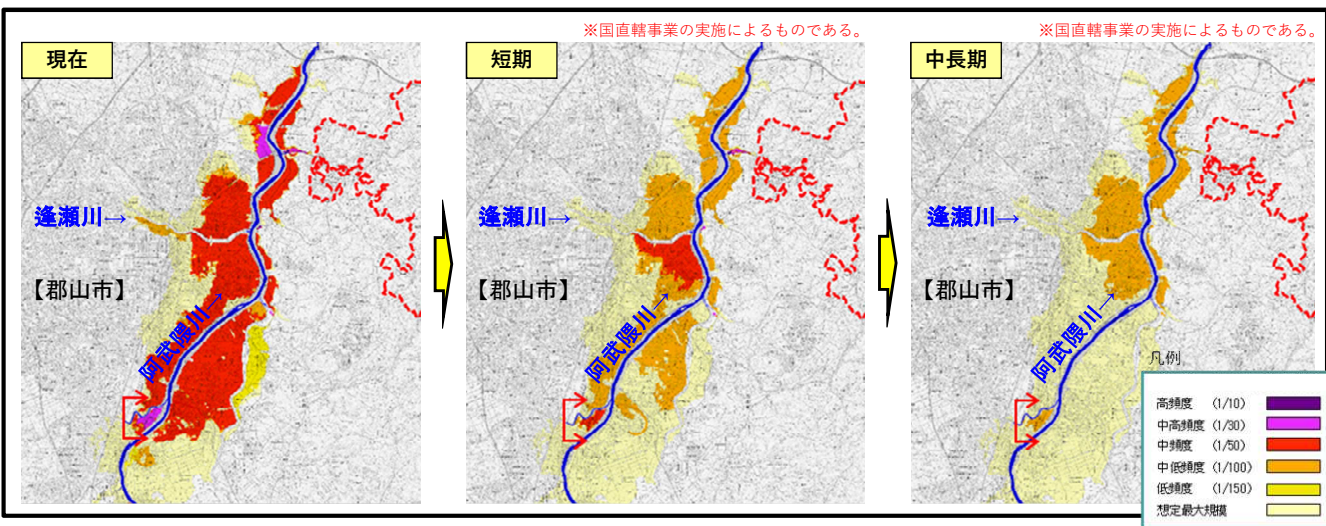
7. (参考)阿武隈川流域における各取組について

○情報発信の強化

注: 国直轄管理河川(R2年7月変更前)からの外水氾濫のみを想定したものであり、県管理河川からの氾濫や内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。



【阿武隈川上流区間に簡易カメラを設置】
 【川の防災情報の改良(現況・平常時)】



【多段階浸水想定図及び水害リスクマップの公表】

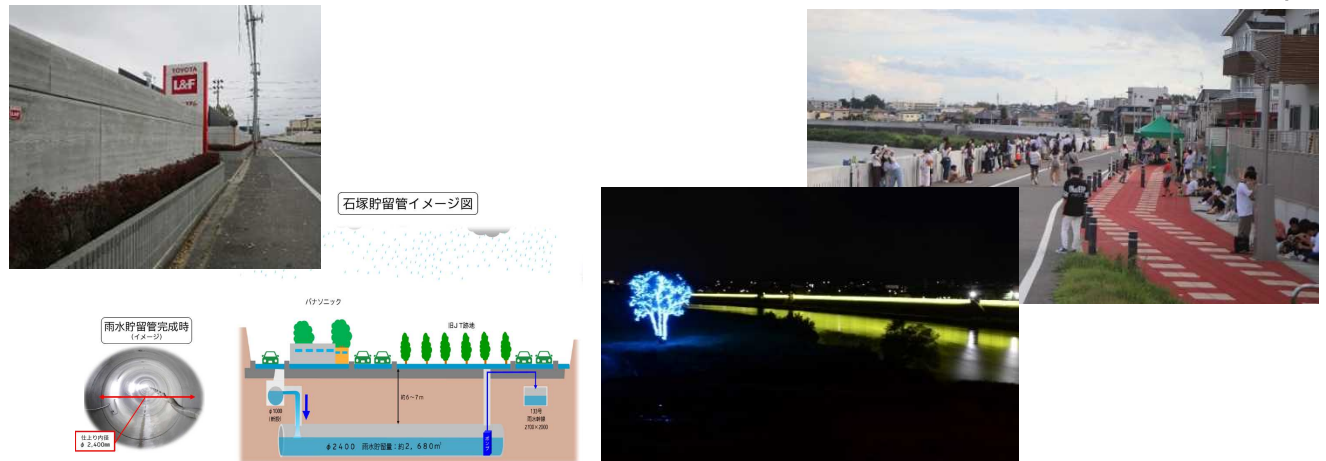
○産学官連携による取り組み



【日本大学工学部による田んぼダム実証実験(須賀川市、郡山市)】

○親水空間の創出

【堤防脇で夏祭(本宮市)】



【止水壁と地下貯留管(郡山市工業団地)】

【完成した堤防のライトアップ(本宮市)】